



Fictitious Experience In Theater

K99048 佐藤友記

LOCATION

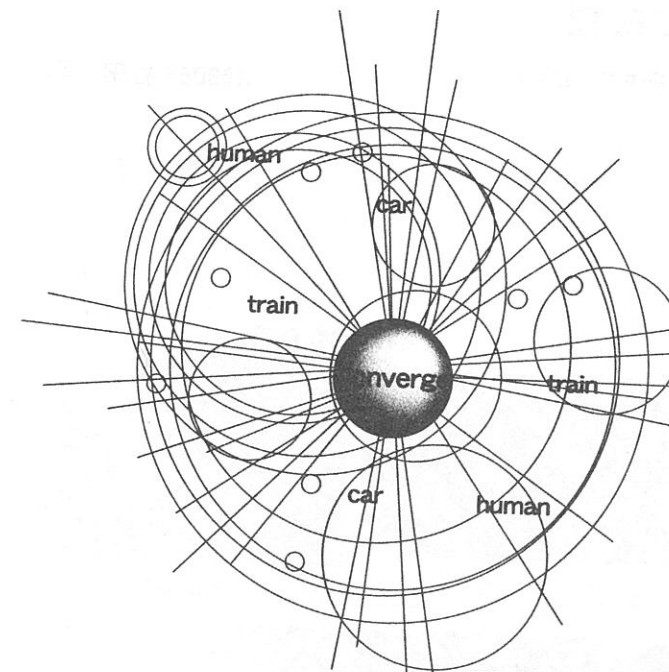
現在、名古屋都市高速道路の高架下は公園やバスケットコート、テニスコートなどに利用されている。けれども、そのように有効利用されている場所が少なく、それら以外の場所はほとんど有効利用されていない。

計画地は名古屋都市高速道路2号東山線の高架下。地下鉄名城線矢場町駅の近くにある若宮大通りに挟まれた場所である。

近くには名古屋の中心街「栄」があり、多くのデパートや飲食店、若い世代が行く洋服屋、雑貨屋などで大変にぎわっている。

計画地を挟んで「栄」とは反対側に「大須」という地域ある。「大須」には昔ながらの商店街や秋葉原のような電気街、最近は若い世代向けの店が増えてきており、さまざまな人が訪れる場所である。

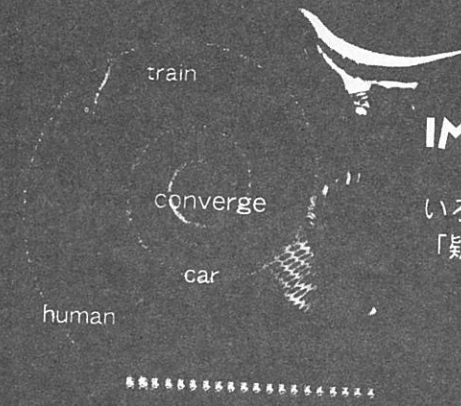
計画地は「栄」から「大須」に向かう人が必ず通る場所で、人の通行量が多い。また、若宮大通りと天津通りという広くて交通量の多い道路が交差する位置にある。



CONCEPT

メディアの発達により現代社会では、とてつもなく膨大な量の情報があふれている。情報だけなら多くの情報を集められ、知識にはなるだろう。けれどもそれは、ただ情報の上での知識であり、体験した上での知識ではない。もしただの情報を体験に変えることができれば、それにより多くのものを感じ取れることができ、本当の意味での知識につながるのではないだろうか。

「情報→体験」そのためにはたくさんさんの時間やお金がいる。多くの事を体験するのは大変である。時間やお金でできるものならまだいいが、できない事もたくさんある。それらを体験するためにはどうすればよいのだろうか。



IMAGE

いろいろなものが収束し、「疑似体験」の空間へ

SUGGESTION

情報の中で一番印象に残るのは視覚からのものであり、最も人を集中させることができる。そのなかでより集中を高めることができるのは映像である。

高い集中のなかでの視覚からの情報は、体験に近いものになるのではないだろうか。そして、映像からの情報によりできないことが「疑似体験」でき、情報だけでは得られない知識が得られるのではないだろうか。

そのような体験できる空間を計画する。

